



きら煌めく人々たち

「黒毛和牛の飼育にかける兄弟」

山並 彰一郎さん、幸一郎さん（倉岳町宮田・25歳、23歳）

倉岳町宮田に住む山並さん兄弟は、先祖から代々続いている黒毛和牛の飼育を受け継いで、現在、母牛70頭と子牛40頭を飼育している。もの心ついたころから牛は身近な存在で、今の仕事に就くことに迷いはなかったが、1日たりとも気を抜けない、動物を育てることの苦労も感じている。

「自分の牛を赤ちゃんから育て、それから子どもが生まれてきたときの喜びはひとしお」と、笑顔で語る兄弟のこれから。目標は、母牛を150頭まで増やし、経営的にも立派に成り立たせていくこと。「牛を育てることが何よりも楽しい」と語る、兄弟ならではの黒毛和牛に期待したい。

また、牛舎を清潔に保つたり、牛に予防接種をするなど健康管理にも気を配っている。「出荷のときに、ていねいに育てた子牛が高値で引き

取られるのがとてもうれしい」と苦労が報われたときの喜びを語る。

しかしながら、この3年でエサの原料となるトウモロコシや大豆の価格が高騰し、多額の生産コストがかかるようになった。また、全国的に牛肉の消費量が減少していることにより、需要よりも供給が上回っている状況もあり、世の中が不景気で経営も楽ではないが、今が我慢のしどころ」と語る。

2人が育てた子牛は、肥育農家に引き取られ、成育されていく。「健康な牛を肥育農家に引き渡して信頼関係を築くことも重要なことだと思っている」と。

ハッピーバースデー

今月で1歳になります



盛田 心咲ちゃん
有明町須子
父・洋平さん
母・理恵さん

遊ぶことと食べるのが大好きです♪



大塚 博奈ちゃん
本渡町本戸馬場
父・知博さん
母・加奈子さん

いつもパワー全開！これから皆さんよろしくお祈りします。



田中 藍ちゃん
久玉町
父・裕一さん
母・多恵子さん

パパ似でとってもかわいいです♪ 碧お兄ちゃんが大好きです！



若松 凜太郎くん
本渡町本渡
父・俊さん
母・由美さん

好奇心おうせいな凜太郎！元気にすくすく大きくなってね。



福富 悠衣ちゃん
志柿町
父・俊さん
母・智恵子さん

元気いっぱい！笑顔がステキなゆいです。すくすく育ってね☆



吉田 航くん
有明町赤崎
父・忍さん
母・留美さん

海兄ちゃんと仲良く元気に育ってね♡ 海・航大好きだよ♡



千葉 唯愛ちゃん
下浦町
父・勝幸さん
母・桐子さん

笑顔がステキ♡ぱぱとばあばが大好きです♡



船本 美咲ちゃん
新和町小宮地
父・文和さん
母・玲子さん

皆さんに、かわいがってもらって、幸せです。また声をかけてね。



坂口 結蘭ちゃん
本渡町本渡
父・優作さん
母・富美さん

わが家のいやし系。これからも一歩ずつゆっくりと大きくなってね!!

12月で満1歳になるお子さんを募集します！

- 応募期限=11月10日(必着)。
- 応募方法=写真裏にお子さんの住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、コメント(30字以内)、保護者名(父・母)を記入し、〒

863-8631 (住所記載不要) 天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は9人まで(応募者多数の場合は抽選)とし、応募写真は返却しません。

現代に息づく歴史の証

「福連木の子守唄」(天草町)

福連木の子守唄は、古くから福連木地区に伝わる子守唄で、市無形民俗文化財に指定されています。同地区は、江戸幕府の「官山」があったことで知られています。その昔、村人は山に自由に出入りしながら、日々の生活の糧を得ていました。しかし、山では良質の檜が取れていたことから、幕府の管理下におかれてしまいます。村人は山への立ち入りを禁じられ、生活はしだいに困窮していきます。このような中で、村の若い娘たちは、家計の負担を軽くするために子守奉公へ出されるようになり、この唄が生まれたとされています。同唄は、子どもをあやすための歌というよ



▲子守唄を披露する福連木小学校の皆さん (写真は平成20年11月9日の福連木子守唄&童謡まつり'08in天草)

りは、子守をする娘たちの哀しくも寂しい心情を歌った「守り子唄」でもあり、現代に至るまで地区の伝統民謡として歌い継がれています。なお、11月7・8日に福連木子守唄公園で「全国子守唄サミット&フェスタ'09in天草」が開催されます。

皆さん、ぜひお出かけください。

地域ぐるり



川をいかしたまちづくりに取り組み

栖本まちづくり協議会(松尾悟会長)

栖本町の中心部を流れ、飲用水や農業用水の源となっている河内川には、かつてはいたとされる言い伝えが残っています。栖本まちづくり協議会では、このかつて伝説が残る同川をいかしたまちづくりを展開しようと、さまざまな取り組みを行っています。まず、この川の豊かな恵みで育った米のPRをしようとして「栖本オリジナル焼酎」の販売を計画し、酒造会社への原料の供給も終わりました。現在は蒸留段階に入っていて、来年4月の発売に向けて準備を進めています。

また、ホタルが乱舞する豊かな河川環境を守りながら、自然を大切に育てていくことを「栖本ホタルの会」を設立。今年度は川の現状を把握



▲河川の清掃活動を行うようす